

CBC
中部日本放送株式会社

第92期報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日



証券コード 9402

株主の皆さまには、平素より格別のご配慮を賜り、厚く御礼申しあげます。
ここに、当社第92期報告書(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)をお届けいたします。

当社は、昨年12月、創立67周年を迎えました。「100年企業」への歩みに向けては、ちょうど3分の2を経過したこととなります。民間放送第1号の100年企業に向け、これからも時代をリードし、地域とともに歩み続けていきたいと考えています。

少子高齢化と人口の減少、広告市場の変化、メディア・デバイスの多様化、放送技術の進展等、グループを取り巻く環境は大きく変わってきています。今後、社会環境のパラダイムシフトが起きても、これまで通り、放送という公共性の高い事業を中核に、地域で最も信頼されるメディア企業グループとして、地域社会の経済や文化の発展に寄与するという社会的使命を確実に果たしていくためには、5年目を迎えた「Webフォーメーション」体制を更に進化させ、グループ全体の基盤をより強化し、将来にわたって成長エンジンを回し続けていく必要があります。

「映像」「情報」「ICT」を軸にした「中期経営計画2018-2020」の始動

当社および当社グループは、2018年度を初年度とする「中期経営計画2018-2020」を策定しました。策定にあたり、当計画期間を、「100年企業」となる2050年においても成長し続けるグループとなるために、主力であるテレビ・ラジオの放送を中心に既存の事業を更に強化しつつ、グループ全体

で将来の種を播き、成長の可能性を見出す3年間と位置付けました。計画最終年度となる2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、我が国経済にとっても、メディアにとっても大きな節目の年となります。ポスト五輪の懸念もありますが、この地区では2026年のアジア大会、2027年のリニア開通などが控えており、ポテンシャルは高いエリアといえます。足元をしっかりと固めつつ、将来に向けて備えておく重要な期間となります。

当計画における重点目標としては、成長戦略の3本柱「映像」「情報」「ICT」を軸に、「現行ビジネスの強化」「新規事業の拡張、創出」「成長を支える基盤の強化」の3点を掲げ、グループの成長を促進させていきます。

「現行ビジネスの強化

「現行ビジネスの強化」とは、すなわち放送を中心とした現行ビジネスの売上、利益を最大化することです。当社グループの中核である放送事業に関しては、「少子高齢化と人口の減少」や「メディアの多様化、高度化」により、「若者のテレビ・ラジオ離れ」が進んでいるという声が聞かれます。少子高齢化が進めば、若年層向けの市場が縮小に向かうという予測もありますが、逆に見れば、高齢層向けの関連市場は今後、拡大するという見方もできます。また、メディアの多様化も、見方を変えれば好機となります。広くあまねく伝送する放送波を持ち、地域に根差したコンテンツ制作力を有するという強みを生かして、地域の情報インフラとして、信頼あるコンテンツを生み出し、そして、その価値を、出口戦略や各種データなどの様々な手段によって最大化していくことで、可能性はさらに広がっていくものと考えられます。重要なのは、こうした環境の変化をプラスと捉え、対応していくことです。



代表取締役社長

杉浦心樹

CONTENTS

株主の皆さまへ	01
CBCグループ事業概況	05
テレビ	05
ラジオ	06
イベント	07
クロスメディア他	08
トピックス	09
連結業績ハイライト	11
会社情報	13
株式情報	14
株主メモ	裏表紙

また、不動産事業では、昨年3月に取得した名古屋駅前エリアの不動産に関して、リニア中央新幹線の開通を見据えた再開発の検討を開始し、その他の各保有資産に関しても、現状の収益の最大化や新たなポートフォリオの構築を推し進め、経営基盤の強化に努めていきます。

新規事業の拡張、創出

「新規事業の拡張、創出」とは、「100年企業」の実現に向けて、将来成長が見込まれる分野にリソースを投入し、新しい収益の柱を創出していくことです。放送事業が安定しているときだからこそ、新たな種を播くことが重要となります。

その1つは「放送事業を強化する総合的メディアデザインの構築」です。昨年行った総務省の実証実験などで得た知見をいかし、放送とデータ利活用を結びつけるプラットフォームをはじめ、各種プラットフォームの可能性を探りつつ、そこから生まれる新たなビジネスモデルについて検討し、ラジオ、テレビの価値の最大化につなげていこうと考えています。

もう1つは「次世代に向けた戦略的投資、新規事業の開拓」です。放送関連分野だけではなく、「ICT」分野を中心に検討を行い、高度な技術や知見を有するさまざまな企業とのオープンイノベーションによる連携や協業も積極的に進め、事業拡大に向けて取り組んでいきます。

成長を支える基盤の強化

「成長を支える基盤の強化」とは、グループ各社が日々、今日を超えるパフォーマンスを発揮するため、「インフラ整備」と「次世代人材の開発・育成」を行っていくことです。

「インフラ整備」として、まず着手するのは、CBC会館のリニューアル工事にに向けた検討です。本社エリア再開発については、

2015年度に第1期となる放送センターの増築工事が完了し、CBCテレビの全機能を集約、BCP機能も強化しました。2017年度には第2期として、CBCアネックスが完工し、グループ3社が機動的に連携できる新たな拠点を整えました。第3期となるCBC会館に関しては、現在はスタジオ使用が中心となっていますが、長期にわたる耐久性、耐震性が確認されており、今後3年ほどかけてリニューアル工事を実施し、CBCの表玄関としての機能を生かした有効活用を図っていく方針です。そして、放送機能の強化に向けては、テクノロジーの進展に合わせて新たな設備が必要となるため、多額を要する更新も予定しています。

「次世代人材の開発・育成」として不可欠なのは、ICTリテラシーの向上です。そのうえで、社内外の技術やアイデア等を組み合わせ、新たな価値を創造できる人材育成の体系を整備していきます。あわせて、グループの職員やスタッフの「新しい働き方」についての検討も進めていきます。

「100年企業」へ向かって

民間放送のパイオニアとして歴史を先導してきた当社グループは、「100年企業」へ向かって、これからも時代をリードし、地域の皆さまに信頼され、欠かせない存在であり続けていきたいと考えています。そのために、上記目標及び課題に対処していくことこそが、報道機関、情報インフラとして機能するという使命を達成し、且つ企業としての成長につながっていくものと確信しています。取り巻く環境は技術革新とともに今後ますます変化することが予想されますが、その変化に絶えず対応できる磐石なグループ体制を構築し、あらゆるステークホルダーの皆さまに最大の満足を提供できるよう、鳥瞰の目を持って成長市場を見渡し、ズームレンズの目を持って、未来を見据えつつ現業に注力し、基盤を強化して、それを将来に繋げていこうと考えています。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年6月

テレビ

トップを窺える位置へ

平成29年度は、10月の月間視聴率が全日帯(6:00~24:00)とノンプライム帯(6:00~19:00、23:00~24:00)で1位となり、年間平均視聴率でも、全日帯が7.9%、ゴールデンタイム(19:00~22:00)が12.2%、プライムタイム(19:00~23:00)が12.0%、ノンプライム帯が6.7%と全ての時間帯区分で2位となりました。4時間区分オール2位は、ノンプライム帯の視聴率を算出している平成元年以来、初めてのことです。

堅調なレギュラー番組

報道情報番組『イッポウ』(月~金曜 16:50~19:00放送)は3年連続同時間帯1位、情報生ワイド番組『なるほどプレゼンター!花咲かタイムズ』(土曜 9:25~11:30放送)は10年連続同時間帯1位となりました。

全国への展開

情報生ワイド番組『ゴゴスマ~GOGO! Smile!~』(月~金曜 13:55~15:58放送)は、放送エリアが関東・宮城・山陰・山口地区に加えて、今年4月から静岡・新潟地区にも拡大し、ローカルの枠を越えた全国に通用する情報番組の新たな形を構築しています。



イッポウ



なるほどプレゼンター!
花咲かタイムズ



ゴゴスマ
~GOGO!Smile!~

ラジオ

聴取率1位

ラジオ事業は、地域に密着した身近なパーソナルメディアとして「地域No.1ラジオ局」を目指しました。6月の中京圏ラジオ個人聴取率調査(12才~74才)では、平日の生ワイド番組が好調だったこともあり、総合および平日平均で1位を獲得しました。



つボイノリオ、小高直子アナウンサー



多田しげお



北野誠

番組情報サイト Radichubu

ラジオ番組の内容を文字で記事化し、自社サイトやニュースアプリなどで展開する番組情報サイト「RadiChubu」を展開しています。「音声コンテンツの記事化」は、既存リスナーはもちろん、普段ラジオに接していない方々にも届くことから、新しい番組の認知向上・拡散をめざしています。開始から1年での目標であった月間100万ページビューを10月に達成し、現在も順調にアクセスを増やしております。



イベント

ゴルフ

現存する民間最古のゴルフトーナメント『第58回中日クラウンズ』（4月）は名古屋ゴルフ倶楽部和合コースで熱戦が繰り広げられ、クラウンズウィークの1週間で2万5千人を超えるギャラリーが訪れました。



第58回中日クラウンズ
優勝 宮里優作選手

音楽

40回の節目を迎えた、名古屋の春を彩るクラシックの祭典『第40回名古屋国際音楽祭』（3月～7月）は、ドイツの名門オーケストラ『ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団』（6月）など7公演を行ないました。このほか、ロック・ポピュラーの幅広いファン層を誇るアーティストの公演を開催しました。



第40回名古屋国際音楽祭
ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
©CBC/木村一成

ラジオの魅力アピール

『CBCラジオ夏まつり2017』（7月）が23万5千人を動員したのをはじめ、初の試みとなったシニアターゲットのイベント『春の終活文化祭～シニアにYELL～』（3月）では、シニア層のリスナーとスポンサーを繋ぐマッチングイベントとして成功を収めました。



CBCラジオ夏まつり2017



春の終活文化祭
～シニアにYELL～

クロスメディア他

CUCURU

20代から40代の女性をメインターゲットにした、東海地方の今知りたい、使える情報を毎日配信するサイト「CUCURU」を展開しています。開設10か月で100万ページビューを超え順調に成長しています。さらに8月にはスマホ用の無料アプリのサービスも開始しました。



新たな映像技術への取り組み

CBCクリエイションが地域の大学と共同で、企業の防災イベントに参画し、地震発生時のシミュレーション映像をVRで制作しました。



映画

出資映画では『忍びの国』が興行収入27億円、『8年越しの花嫁 奇跡の実話』は25億円を超える大ヒットとなりました。



©2008和田竜/新潮社
©2017映画「忍びの国」
製作委員会



©2017 映画
「8年越しの花嫁 奇跡の実話」
製作委員会

当社グループの番組、CMが国内外で高い評価を受けました！

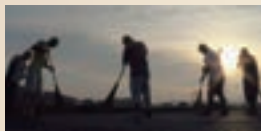
主な受賞

テレビ

ドキュメンタリー

「ヤメ暴～漂流する暴力団離脱者たち～」

- 第44回 放送文化基金賞 番組部門テレビドキュメンタリー番組 奨励賞
- 第44回 放送文化基金賞 番組部門企画賞(下野賢志ディレクター)
- 第55回 ギャラクシー賞 テレビ部門 選奨
- 第42回 JNNネットワーク協議会賞 ネットワーク大賞 (番組部門 報道・ドキュメンタリー番組 協議会賞も受賞)



テレビCM

「4世代がお待ちしています。」(広告主：珈琲家ロビン)

- 平成29年 日本民間放送連盟賞CM部門テレビCM 優秀
- 2017 57th ACC CM FESTIVAL フィルム部門Aカテゴリー(テレビCM) ブロンズ



ドキュメンタリー

「消えていく『今』～7秒の記憶と生きる2017春～」

- ニューヨークフェスティバル2018 ヒューマンコンサーン部門 シルバーメダル
- 第51回US国際フィルム&ビデオ祭 ドキュメンタリー部門 シルバースクリーン



ドキュメンタリー

「CBCテレビ開局60周年記念番組 伊勢神宮・命あふるる神々の森 五十鈴川を行く」

- 4 K 徳島映画祭2017 グランプリ
- ニューヨークフェスティバル2018 ネイチャーアンドワイルドライフ部門 ブロンズメダル



エンターテインメント

「ニュートンの木の下で」 (2017.6.19 放送「日本女性の顔における「盛り」の歴史とは？」)

- 第51回US国際フィルム&ビデオ祭 エンターテインメント部門 サーティフィケート(ゴールドカメラ、シルバースクリーンに次ぐ賞)



ラジオ

ドキュメンタリー

「1／6の群像」

- 平成29年度文化庁芸術祭 ラジオ部門 大賞
- 平成29年 日本民間放送連盟賞 ラジオ教養番組部門 最優秀



ドキュメンタリー

「最期への覚悟」

- 第55回 ギャラクシー賞 ラジオ部門 大賞
- 平成29年 日本民間放送連盟賞 ラジオ報道番組部門 優秀



業績ハイライト

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念されたものの、政府の経済政策等による雇用情勢や所得環境の改善から、緩やかに回復しました。一方、当社グループに影響を与えるテレビの広告市況につきましては、やや停滞気味に推移しました。

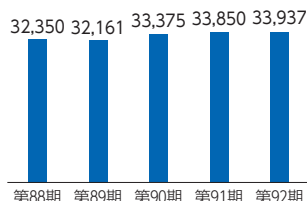
このような事業環境の下、当社グループの当連結会計年度の売上高は、339億37百万円(前期比0.3%増)となりました。利益面では、営業利益は27億79百万円(前期比0.9%減)となりました。一方、営業外収益における受取配当金が増加したことなどから、経常利益は31億87百万円(前期比1.1%増)となりました。また、特別利益において前期に補助金収入があった反動減により、親会社株主に帰属する当期純利益は19億71百万円(前期比3.9%減)となりました。

放送関連

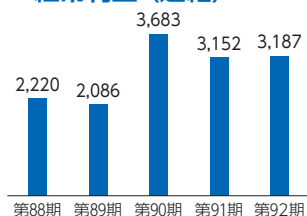
このセグメントは、中部日本放送(株)、(株)CBCテレビ、(株)CBCラジオ、(株)CBCクリエイションならびに(株)CBCコミュニケーションズ(平成29年10月23日に(株)シー・ウェーブより商号変更)で構成されます。

「放送関連」は、ラジオのタイム収入やテレビスポット収入は増加したものの、ラジオスポット収入やクロスメディア収入が減少したことにより、売上高は307億50百万円(前期比0.3%減)となりました。利益面では、減価償却費の増加やラジオスポットの減収の影響により、営業利益は16億44百万円(前期比5.0%減)となりました。

● 売上高 (連結)

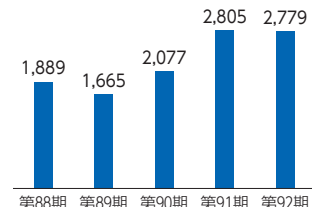


● 経常利益 (連結)

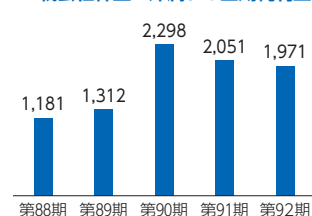


(単位：百万円)

● 営業利益 (連結)



● 親会社株主に帰属する当期純利益



不動産関連

このセグメントは、中部日本放送(株)と(株)千代田会館ならびに(株)CBCビップスで構成されます。

「不動産関連」は、昨年3月に取得した名古屋駅エリアの賃貸ビルにおける収入などを計上したことにより、売上高は17億25百万円(前期比9.1%増)となりました。利益面でも、増収効果により、営業利益は10億68百万円(前期比9.7%増)となりました。

その他

ゴルフ場事業を営む(株)南山カントリークラブ、保険代理業などを営む(株)CBCビップスならびにタクシー業を営む文化交通(株)で構成される「その他」は、売上高が14億60百万円(前期比2.8%増)、営業利益は89百万円(前期比27.0%減)となりました。

- 設立年月日 昭和25年12月15日
- 商号 中部日本放送株式会社 (略称CBC)
- 英文表示 CHUBU-NIPPON BROADCASTING CO.,LTD.
- 本社 名古屋市中区新栄一丁目2番8号
- 資本金 13億2千万円

■ 子会社の概況

会社名	資本金 (百万円)	当社の出資比率 (%)	主要な事業内容
(株)CBCテレビ	100	100.0	放送法による放送事業(テレビの放送)、番組制作販売、音楽・スポーツ等のイベント等
(株)CBCラジオ	20	100.0	放送法による放送事業(ラジオの放送)、放送送出業務の請負
(株)CBCクリエイション	40	100.0	放送番組の企画制作
(株)CBCコミュニケーションズ	30	100.0	広告代理業
(株)千代田会館	300	66.6	不動産の所有・賃貸・管理
(株)南山カントリークラブ	10	100.0	ゴルフ場の経営
(株)CBCビップス	60	100.0	不動産の所有・賃貸・管理、保険代理業、プレイガイド、OA機器販売
文化交通(株)	20	100.0	タクシー業

※(株)CBCコミュニケーションズは平成29年10月23日付で(株)シー・ウェブより社名変更いたしました。

■ 取締役および監査役

代表取締役会長	大杉 正一
代表取締役社長	石浦 幼樹
取締役	小山 篤一
取締役	岡谷 英一
取締役	河野 香一
取締役	安井 市三
取締役	河津 俊一
取締役	茶村 尚樹
取締役	林村 元一
取締役	村瀬 家誠
取締役	升藤 肇
取締役	近藤 正治
取締役	伊藤 悦司
常務取締役	林 富文
常務取締役	伊藤 昌夫
常務取締役	富川 文夫
常務取締役	川口 文夫
常務取締役	柴田 昌和
常務取締役	佐々木 治夫

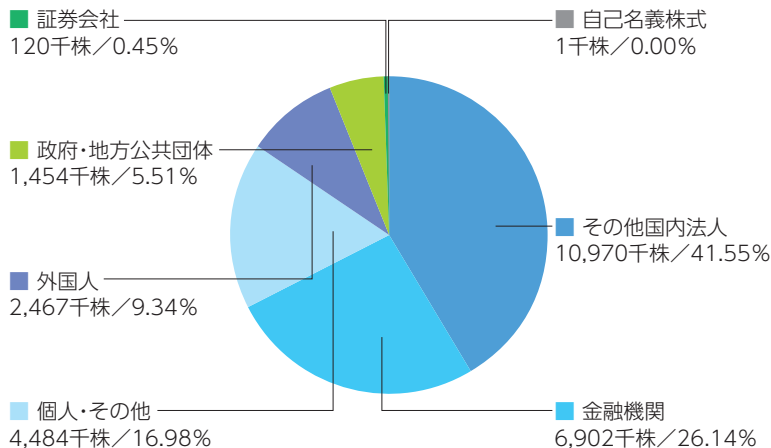
- 発行可能株式総数 80,000千株
- 発行済株式の総数 26,400千株
- 株主数 3,154名

■ 大株主の状況


株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社中日新聞社	2,602	9.85
竹田本社株式会社	1,700	6.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,300	4.92
三井住友信託銀行株式会社	1,167	4.42
JP MORGAN CHASE BANK 380684	1,162	4.40
株式会社ナゴヤドーム	1,040	3.93
中部電力株式会社	883	3.34
株式会社名古屋銀行	825	3.12
名古屋鉄道株式会社	822	3.11
日本電気株式会社	696	2.64

■ 株式分布状況

所有者別株式数



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
剰余金の配当の基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について	証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html



本 社

〒460-8405 名古屋市中区新栄一丁目2番8号
電話 (052)241-8111(代表)

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法

当社のホームページに掲載します。
(<http://hicbc.com>)
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、名古屋市中で発行される中日新聞に掲載します。

上場金融商品取引所

名古屋証券取引所市場第一部